

研究区分	学部研究推進
------	--------

研究テーマ	コンケン大学看護学部、米国等大学の国際交流に関する研究				
研究組織	代表者	所属・職名	看護学部・教授／学部長	氏名	太田 尚子
	研究分担者	所属・職名	看護学部・特任教授	氏名	渡辺 順子
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	濱井 妙子
		所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸 まゆみ
		所属・職名	看護学部	氏名	教員全員
	発表者	所属・職名	看護学部・講師	氏名	根岸 まゆみ

講演題目	
看護学部の海外協定校・COIL 提携校との国際交流推進に向けて	
研究の目的、成果及び今後の展望	
<p>【目的】本研究の目的は①令和3年度に開講される国際保健・看護実習（オンライン）の実施、②米国における国際保健・看護実習の受け入れ施設等の視察および大学（ポートランド大学）との提携、③インドネシアにおける国際保健・看護実習の受け入れ施設等の視察および大学（パジャジャラン大学）との打ち合わせである。</p> <p>【成果】</p> <p>①当初、相互の学生対象のオンライン演習を計画したが、新型コロナウイルスパンデミックの影響によりスケジュール調整が困難となり、十分な準備が出来ず実施することができなかった。しかし、次年度以降の相互の海外実習については3度の打ち合わせを行うことができた。</p> <p>②・③長引くコロナ禍の影響で、令和3年度における本学の教員・学生の短期渡航制限は解除されず、両国の臨地実習施設の視察は不可能となった。パジャジャラン大学においては国際交流担当者不在によりオンライン打ち合わせも実施できなかった。しかし、ポートランド大学看護学部とは今後の実習や共研究の打ち合わせ、提携の可能性について複数にわたる打ち合わせを実施し、2回のCOIL型授業（うち、一回は発展看護学のオンライン実習）を実施することができた。国内においてもCOIL提携校との国際交流が実施できたことで、学生たちは多文化理解が進み国際保健により興味を持ったとの声も聞かれた。</p> <p>【今後の展望】</p> <p>2018年度から導入されたCOIL（Collaborative Online International Learning = COIL）プロジェクトの実施により、海外大学（米国、タイ、モンゴル）とのオンライン実習が可能となった。しかし、時差問題やカリキュラムのスケジュール調整の困難さから継続的な実施は難しい。今後は、これらの課題（時差問題、スケジュール調整など）に取り組みつつ、オンライン実習回数を増やせるよう努めると共に、本学の渡航制限が解除された場合はタイ、米国、インドネシアの大学間協定校やCOIL提携校を視察し、コロナ後の現地臨地実習の可能性を探るため次年度も本プロジェクトを継続する。</p>	